

箸休め—蟹屋さんと M 君のこと

医療法人YCT 駒木小児科クリニック 理事長
駒木 智

前震や本震があって、「大丈夫？」メールや電話が皆様にも沢山きたでしょう。我が家では親戚を除いて、どこから最初に電話があったかという、なんと北海道知床(しれとこ)の蟹屋さんからの大丈夫？コールでした。カニ屋ですよ、カニ屋(笑)。僕は北海道出身で、熊本で開業してから、世話になった熊本の人に故郷のカニセットを毎年お歳暮に送っているのですが、その海鮮卸さんでした。その方とは注文のFAXしかやり取りをしたことがないのですが、さすがにその電話が本震後の最初のコールだったので驚きました、「大丈夫ですか？ケガはありませんか？何かお送りしましょうか？」と訊いてくれるのですが、「ケガはないけど毛ガニをただで送って」と言おうと思ったけど流石に言えないし(笑)、、、有り難かったけど困った記憶があります。でも面識もないのに温かい人でした。昨年末の復興の証としてのお歳暮には、その業者さんが値段のわりにサービスしてくれて熊本の人に随分良いカニを送ってくれたはず。

あと地震があったからこそ、旧友と久しぶりに連絡がとれたという方も皆様の中にはおられるのではないのでしょうか？僕は20年以上ぶりに連絡がとれた人がいます。僕自身は札幌の高校と北海道大学を卒業して、それで熊本にいるものですから、自分の故郷関係には不義理の至りです。それでも高校や大学などの同窓の方々から連絡がありましたけど、何かみんなshyなのか？震

災から1週間くらい経ってからメールが来るんですね、面白かったです。その中で北海道大学から大阪大学細胞工学センターの大学院に行ってその後ほぼ消息不明になっていた大学同期のM君もいました。ちょっと変わり者で、2年前にやっと消息がわかり、「今何してる？」とこちらからその時手紙を認めました。だけど当時は全く無視され、なしのつづて。でも本震1週間後、M君から突然大丈夫？メールが来ました。これは嬉しくて、昨年12月自院を休診にして大阪まで会いに行きました。20年以上ぶりです、痛飲いたしました。お互いとりあえず大過なく卒後30年間過ごしてきたことに感謝です。M君は50歳でようやく結婚して、今4歳の可愛いお子さんがいらっしやいました。加藤登紀子さんの「生きてりゃいいさ」は、今でも「ホントにそれでいいのかよ」と思ってしまう性格が悪い僕ですが、この時ばかりは「そうだ何はともあれ、生きてりゃいいんだね」という感じでした。

さてこの話の教訓は？考えたけど何も浮かびません、だって箸休めですから。